

Chubu Jiyu-Bijutsu 2024



中部自由美術協会会員作品

中部自由美術協会のあゆみ 2022～2024

- ☆ 日常で感じたことが絵となれば 平面部 ● 川西 みどり
- ☆ 会員になって迎えた初めての自由美術展 平面部 ● 山本 清人
- ☆ 隈部直臣彫刻展～せせらぎ～ 立体部 ● 隈部 直臣
- ☆ 自選展のこと 平面部 ● 中村 春子
- ☆ 自由美術協会事務局長 ● 霊山 邦夫
- ☆ 中部展 立体部 ● 森 真
- ☆ 第 87 回自由美術展を振り返って 中部自由美術協会事務局長 ● 森谷 連



【光もとめて 2012 P120号】

日常で感じる事が絵となれば

川西みどり

今年の元旦は衝撃でした。まさかお正月の楽しい団欒の時に能登半島地震が起こるとは、誰も想像しなかったでしょう。あの綺麗な風景の北陸の海岸もが隆起し港が地になり、漁港が無くなってしまいました。

その瞬間福島のことを走馬灯のように浮かんできました。2011年3月11日東日本大震災時の福島の原子力発電爆発事故。2011年の9月個展に来場された方からの励ましメッセージ（幼児達は字が書けないので、絵や折り紙を貼ってくれました）を150枚程持参して福島に向かいました。

福島の教員を退職された女性が私を市内案内して汚染数量を計られました。室内は三重県の10倍で0.1、外は1,2、植え込みは、5.8、溝は3.5、表面の土をかき集めた袋上はなんと8.5でした。その後、彼女は県の総会で、その葉書を拡大コピーし150枚を後の壁に掲示して三重県の方達が「私達、福島を応援してくれています。」と話されたそうです。そして風評被害の深刻さを語られました。福島産の野菜も果物も売れない、ブルーベリー庭園は倒産、翌年、同じ訪問先の放射線量が室内0.01、外が0.1でした。減った理由を尋ねると、「風、風なんです。風が空気へ運んでくれて薄くなって行くんです。」それから私は『風に吹かれて』を生涯のテーマにすると決めました。2年後避難地を訪れました。人っ子一人いないのに、家々の庭には百日紅の花が咲き誇り、綺麗に手入れされていました。案内してくれたバスの運転手さんに尋ねると8月に2日だけ規制が許されたそうです。今後もう住めないかもしれない家を綺麗にしたのですね。イタチや小動物は見かけました。その時の気持ちの絵を自由美術展に出品、佳作賞をいただきました。そして一昨年はウクライナへの思いを込め出品。会員になることができました。これからも日常の思いを大切に描き続けたいと思っています。



【巡る F100号】

会員になって、迎えた初めての自由美術展

山本清人

前回の機関紙に会員となつての抱負と気持ちを書かせていただきました。美術団体の会員に私になるとは若い頃には考えてもなつたことを改めて補足いたします。

若かりし頃に先輩作家さんから、敷居の高さといろいろと…聞いていた私自身の制作活動ですが、2022年～2023年にかけて新たなページ、会員としてスタートしました。迎えた第87回自由美術展出品作品はF100号キャンバスに油彩です。こだわり続けた球体が描かれた青みが強い印象の作品です。描かれた支柱は人の内面を高さと表現しました。画面内に奥行きが出るよう、支柱を太さの変化と陰影を工夫した新しい試みの作品でした。日程を合わせ、ドキドキしながら、いざ東京、自由美術展へ。当日は会場で講評会、後の懇親会と、どちらも初めての参加。講評会は皆さんと一緒に周り熱い真剣な眼差しと的確でわかりやすい講評は大変勉強になりました。講評後の懇親会も壇上では熱く、秋田の会員の方が『この日の・・・』と、熱く語られ活気に満ち溢れたのが印象的でした。講話を聞いているうちにお酒もなんだか苦みと甘みの混じり合う刺激的な味に感じられました。

最後に、時代と共に変化しながら継続した自由美術展。新しい会員として、仲間として、良い縁を頂いたような気がします。自由美術展に参加出来たことを誇りに、勉強不足などありますが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

隈部直臣 (kumabe naomi) 彫刻展 ～せせらぎ～

2023年4月1日(土)～6月11日(日) 愛知県碧南市哲学たいけん村無我苑



【会場風景】

隈部直臣

奈良時代の脱乾漆技法を基礎にして石膏型を用いた乾漆彫刻を中心に陶彫、大理石彫刻を合計30点展示しました。愛知県知立市パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)水のパティオ陶彫を中心に大理石、乾漆彫刻を合計14点展示しました。水のパティオでの展示は今回で2回目になります。

中庭には陶彫、大理石彫刻、屋内には乾漆彫刻を展示しました。

碧南市も知立市も水を身近に感じられる空間でとても穏やかな雰囲気がありました。



【ここから F80号】

自選展のこと

中村春子

長く生命をテーマに描いています。

自選展は、名古屋市覚王山にあるギャラリー安里で行い大小併せて26点の作品は主に最近作である乳房をテーマに発表をしています。

「このところ乳房の温かい深さにひかれてやまない。生命の繋がりを力強く感じながら。」と案内しました。

妊婦を描いてきた私にとって連続したかのこのテーマの直接のきっかけとなったのは姉です。その時90才であった姉の着替えを手伝った折に、ふと広げた胸元に目をやると、恥ずかしそうにでも凜とした目線で何か言いたげに返してきました。母の顔とも重なったその時の様子は今も忘れられない思い出のひとつとして私の心を温め続けます。乳房はいつも育てる力とそれと無縁ではなく灯のようにどんな時にも人の心を照らし

続け、時に勇気づけてくれる。私の感じたものは、それであったのかも知れない。

会場の乳房コーナーではおっぱいが噴き出している絵、語りながら平和を思わせる絵、繋がる命を表現した絵等を飾った。妊婦と田んぼ、時に訪ねた北海道天売島での漁師のうにとり、そして、その島に渡ってきて子育てをする善知鳥たちの逞しさ美しさにも惹かれて作品とし、他に、今を生きる様々な思いを拙いながら色などに込めて表現をしました。

これからも精進していきたいと思います。

展覧会の記録 2022年5月～2024年3月

第73回 中部自由美術協会展 2022年5月3日～2022年5月8日 愛知県美術館 ギャラリー E室

第74回 中部自由美術協会展 2023年4月25日～2023年4月30日 愛知県美術館 ギャラリー E室

第28回 自由美術岐阜グループ展 2024年2月27日～2024年3月3日 岐阜県美術館 一般展示場

第87回 自由美術巡回展・名古屋 2023年12月26日～2024年1月8日 愛知県美術館 ギャラリー 展示室ABC

自由美術協会事務局長 霊山邦夫

2024年正月早々アナウンサーの悲痛な叫び声が聞こえてきた。少々アルコールが入っていた私は、耳を塞ぎながら映像を凝視した。「これは正月の特番なのか？」すぐには理解できずにいたが、現実を知りショックと同時にこの数年、日本世界で起きている現状『感染症による規制・戦争・温暖化による災害等々』が脳内を巡った。

1月7日昼過ぎ、重い気持ちがぬぐえぬまま、少々迷いながらも愛知県美術館についた。名古屋駅も地下鉄も大変な混雑だったが、美術館は静まり返っていた。

明るい館内は作品間のスペースが本展に比べ狭いにもかかわらずとても見やすく、平面・立体作品とも本展ではきづけなかった内容を感じ取ることができた。

研究会では中部の方々の作品を中心に、作品に対する思い・技法（門外不出？）など聞くことができ有意義な会でした。年末年始多忙の中、中部の方々のご尽力で巡回展が出来たことがとてもありがたく、この巡回展がこれからも続くことを願っております。



中部展 立体部 森 真

ここ数年参加させていただいていますが例年雪にみまわれ苦勞しました。

今回は行いが良かったのか天気も良く、展示も搬出もとても楽でした。

今回は年またぎでなく開催されるとのことで収容の面でも期待されます。会場では各々の個性は多様であるものの作家個々の表現に真摯な姿勢や工夫が感じられ研究会での本人の発言も加わりより理解が深まった印象です。予定の時間が足りない熱気でまだまだ続けたいと思う程良い時間でした。

自分自身は作品の価値はその作業量の豊富さを重視しています。自分が設定した階段を登ったり降りたり時間をかけてゆく、そしてそこに立ちただかる相反する無駄をそぎ落としてゆかなければならない。

イヌイットのことわざ「ナルホイヤ」という言葉があります。意味は「明日のことはわからない」ですが、彼らは猟にでると必ず生きるため家族のために何かしらの獲物を持ち帰る、計画もなければ自慢もない。ただ「ナルホイヤ」と言う。こう言う姿勢が作家にもあった方がいいなと思っています。

中部の方々にはいろいろお気遣いいただき感謝しています。

第87回自由美術展を振り返って

中部自由美術協会 事務局長 森谷 連

今回も広い愛知県美術館の展示室で唯一の展覧会となった。コロナ5類移行後の開催で、入場者の増加が期待されたが、結果は662人。一昨年第85回展の過去最少の527人に次ぐ入場者であった。民間企業ならば高額な会場費に対する費用対効果を考え、事業の見直しを迫られること必至であろう。

『臥薪嘗胆』の厳しい環境の中、果たして『創作と発表』が維持できるか。しばらくは『壁訴訟』の『創作と発表』を覚悟せねばなるまい。

自由美術協会

ホームページ <http://jiyubijutu.org/>

中部自由美術協会事務所 森谷 連 方 岐阜市岩井 380-99 〒501-3101 Tel・Fax:058-241-3205

編集/編集部作成 印刷/相羽印刷株式会社